



NST NEWS

H28.5.19

第43号

**2016年度は診療報酬改定の年なんだから。
NSTに関係しそうなこともあるみたいだから見てみよう！**

今回の診療報酬改定では、栄養に関する部分で大きく変更がありました。NSTが注目すべきところは、経管栄養についてと栄養指導の算定要件でしょうか。

経管栄養について

経管栄養について、市販の経管栄養用製品のみ使用の場合は**640円**から**575円**に引き下げられ、特食加算は撤廃された。ただし、明確な経口移行計画があればその期間は経口摂取との併用について640円の算定が可能とのこと。

経口摂取への積極的な関わりや、移行計画、目標について明確にすることが必要なのかな、ととらえています。

栄養指導の要件について

栄養指導の算定要件で現行の治療食に加え

- ・がん
- ・摂食、嚥下機能低下
- ・低栄養

が認められた。



当院は高齢の患者様が多く、退院時の摂食・嚥下に関する食事指導は必要に応じて実施してきていましたが、今回算定要件に加えられたことで**国が必要性を認めてくれた**ということになりますね。**摂食・嚥下困難と低栄養は以前からNST活動の大きなテーマ**でもありますし、今後ますますアウトプットを求められることにもなりますね。上記リスク患者をピックアップすると同時に栄養科へ指導要請ができるようなシステム作りをしていきたいと思えます。

介護支援連携指導料について

介護支援連携指導に、この改訂を機に積極的に取り組むことになりました。NSTとしても何かできることがあるはず。今進めている、地域連携の『**栄養管理ファイル**』をフル活用して情報提供すれば、次施設への伝達や在宅におけるヘルパーさんなどスタッフの意思統一に役立つのでは、と考えています。また、**退院支援看護師**が各病棟に設置され訪問看護師との会議やカンファレンスが始まったことで、**退院後を見据えた栄養面での相談や連携、レベルアップ**も目指せるのではないでしょうか。

その他にも、**認知症ケアチーム**の稼働が始まり、**ユマニチュード**の技術も取り入れることで認知症の周辺症状が緩和されていくと思われまので、**先行期障害の患者さんが少しでも食べられるようにチームで支援して行きたい**と思えます。

とけないアイス体験記



栄養補助食品としてアイスを利用しています。冷たい刺激で食欲増進や覚醒の促進に役立っているようですが欠点として嚥下状態のよくない患者様の場合、口に入れると同時に融けてしまい液状になることで誤嚥につながってしまいます。そこで、市販品として出ている**とけないアイス系デザート**に着目してみました。比較的カロリーも高めのを試食してみたところ、印象としてはムースを冷凍した感じ、でした。凍っている状態で食べると、カチカチではなく食べやすいのですが少しアイスとしてはコクが無いようにも感じました。でもやはり、**完全に融けてもムース状なのでこれは安心だな**、と思います。ただ患者様によってはムース状よりアイスの融けた状態が合っている場合もあり、**STの中でも賛否ありました**。検討の結果、今回は採用を見送ることになりましたが、患者様の多様性を再認識するよい機会になりました。

第39回日本栄養アセスメント研究会

第二協立病院の
福田院長が会長を務める
研究会が6月にあるよ！

会 期： 2016年6月10日(金)・11日(土)
会 場： 兵庫県神戸市／神戸ポートピアホテル
会 長： 福田 能啓(医療法人協和会 第二協立病院 病院長)
テーマ：「**栄養アセスメントの基礎と臨床**」
～Nutrition Support Team の原点に戻って～



HP : <http://www.sti-inc.co.jp/jsna39/>

【会長挨拶抜粋】

日本国民の平均年齢が60歳を超える高齢化社会に向かい、糖尿病、高血圧、脳神経疾患、心血管障害、腎疾患のような生活習慣病やサルコペニア、悪性腫瘍などの疾患のいくつもを抱えながら生活しなければならない時代になっています。「やせている」か「ふとっている」だけでも栄養状態が良いのか悪いのかについては見当がつくと思います。しかし、「栄養アセスメント」をしっかり行えば、やせや肥満だけではなく、疾患の治療効果や予後の予測が可能となります。栄養アセスメントに関する新たな研究成果や経験を発表いただければと思っています。急性期医療や回復期医療さらには在宅医療の現場におけるNST活動で実施している栄養アセスメントの工夫なども発表いただき、実りある研究会になればと祈念しております。

【特別講演】

松末 智先生(大手前栄養学院管理栄養学科教授)

「**微量元素をはじめとする栄養素の基礎と臨床**」

若林秀隆先生(横浜市立大学附属市民総合医療センターリハビリテーション科講師)

「**サルコペニアについて**」

協立温泉病院・栄養管理委員会

